

平成 30 年度認知症フォーラムアンケート調査結果報告書

平成 30 年 11 月

五所川原市地域包括支援センター

1 アンケート調査の目的と方法等

1) 目的

この報告書は、「平成 30 年度五所川原市認知症フォーラムアンケート調査」の結果をまとめたものである。

本調査は、五所川原市民の認知症への正しい理解と支援のあり方に関する普及啓発について評価し、取り組むべき課題を明確にすることである。

2) アンケート調査方法

実施主体：五所川原市地域包括支援センター

対象者：平成 30 年度五所川原市認知症フォーラム来場者（関係者除く）

実施日：平成 30 年 9 月 29 日（土）

方法：配布資料の中にアンケート用紙を同封し、お帰りの際に回収箱にて回収する

3) アンケートの回収率

来場者数 813 人（うち関係者 100 人）

対象者数 713 人

回収状況 回収数 239 枚

無効数 10 枚

有効回答数 229 枚

有効回収率 32.1%

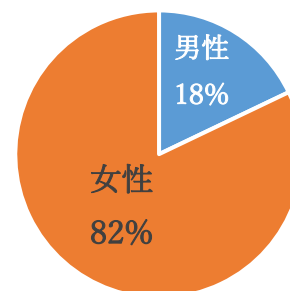
2 回答者の属性（フェイスシート）

1) 来場者の性別

来場者の8割以上（82%）が女性であった。

来場者の性別

n=229

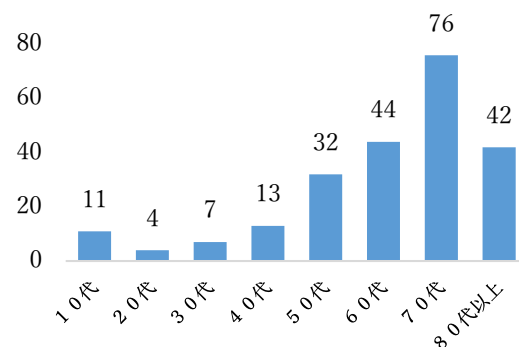


2) 年代

全体的に50代以降の参加者が多く、70代（76人、33%）が最も多かった。若い世代や働き盛り世代の参加が少ない。

来場者の年代

n=229(人)

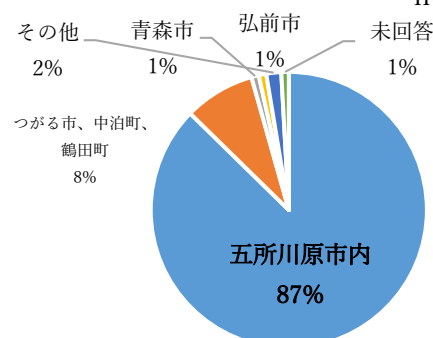


3) 居住地

市内居住の方が8割以上（87%）で最も高かった。

来場者の居住地

n=229

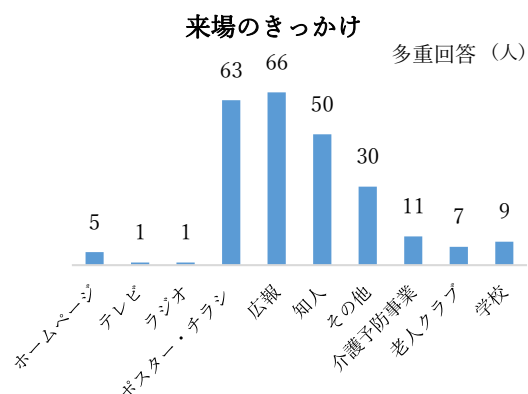


3 設問別調査結果

1) イベントについて

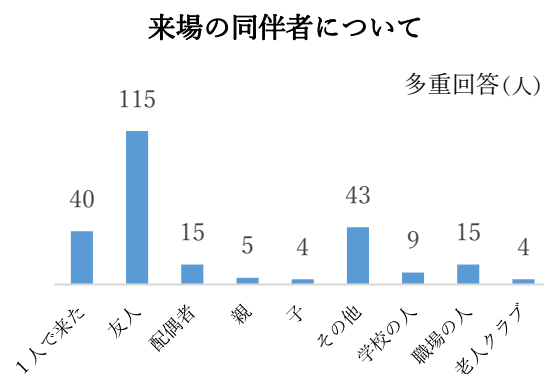
①来場になったきっかけ

全体的に見ると、広報（66人）が最も多く、次いでポスター・チラシ（63人）であった。知人（50人）と回答した方も多かった。



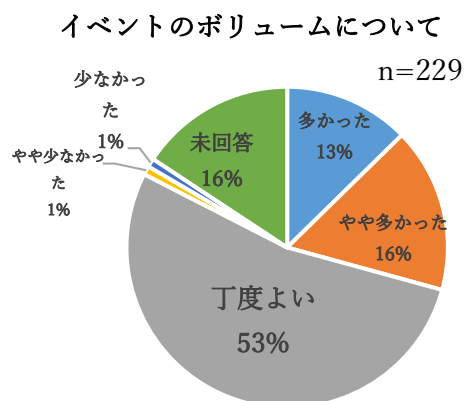
②来場の際の同伴者について

全体的に見ると、友人（115人）と一緒に来場されている方が多かった。



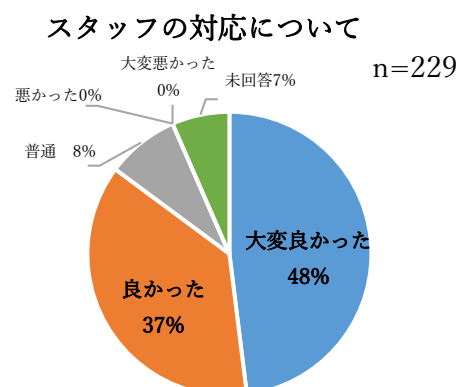
③イベントのボリューム

全体的に見ると、「丁度いい（53%）」が約半数、「多かった（13%）」と「やや多かった（16%）」と回答した方は29%であり、4人に1人は多かったと回答している。



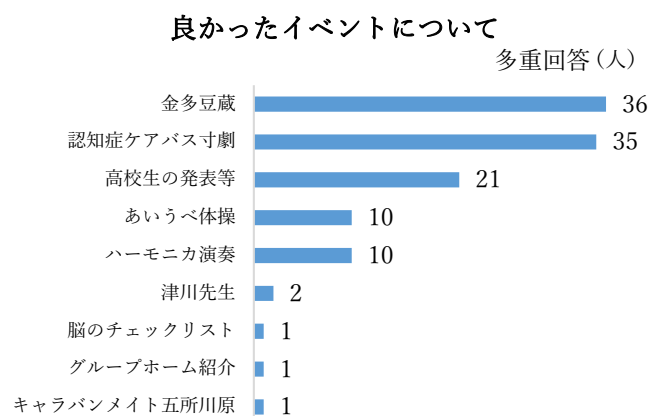
④スタッフの対応

「大変良かった (48%)」と「良かった (37%)」を合わせて 85%の方がスタッフの対応が良かったと回答していた。



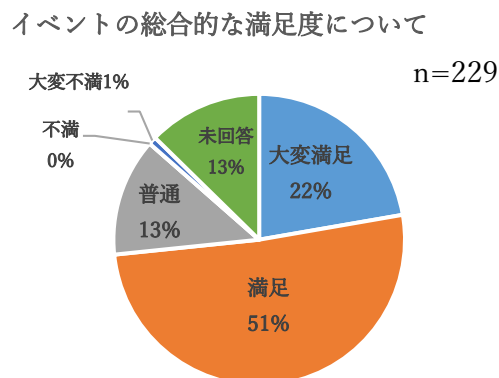
⑤良かったイベントは何ですか？

「金多豆蔵 (36人)」と「認知症ケアバス寸劇 (35人)」の回答が最も多かった。



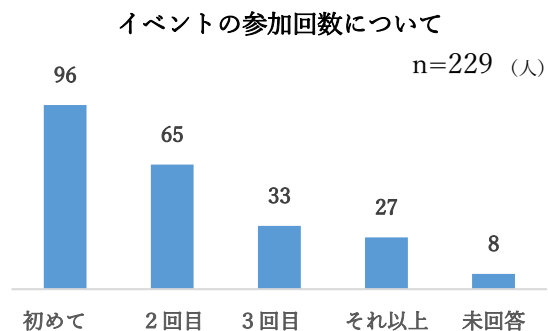
⑥イベントの総合的な満足度

「大変満足 (22%)」と「満足 (51%)」を合わせて 73%の方が満足されていた。



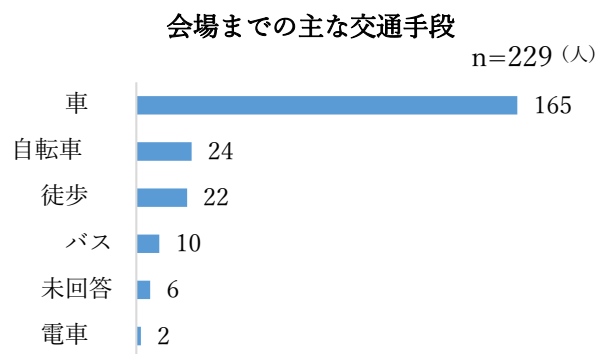
⑦ イベントへの参加回数は

「初めて(96人, 42%)」が最も多かった。



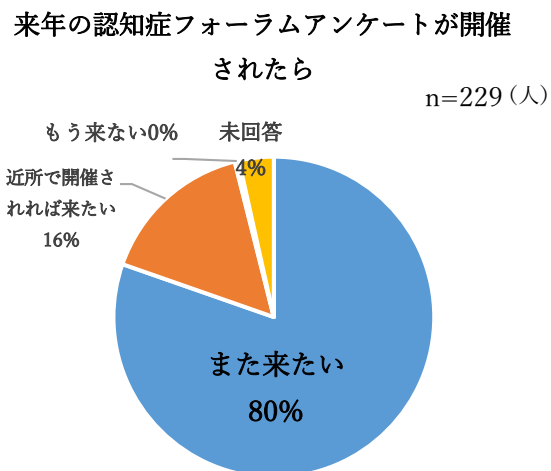
⑧ 会場までの主な交通手段

「車(165人, 72%)」で最も多かった。
次いで、「自転車(24人, 10%)」、「徒歩(22人, 10%)」であった。



⑨ 来年認知症フォーラムが開催されたら

「また来たい(80%)」、「近所で開催されれば来たい(16%)」を合わせて96%の方がまた来たいと回答していた。

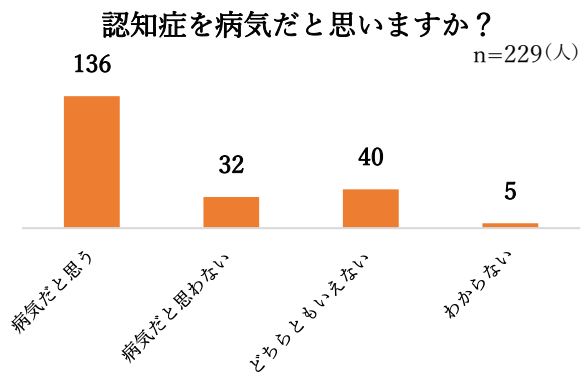


①認知症を病気だと思いますか？

「病気だと思う（136人，64%）」と回答した方が最も多かった。

「病気だと思わない（32人，15%）」、「どちらともいえない（40人，19%）」であった。

平成29年度は、「認知症を病気だと思う（266人，64.1%）」、「病気だと思わない（64人，15.4%）」、「どちらともいえない（78人，18.8%）」であった。

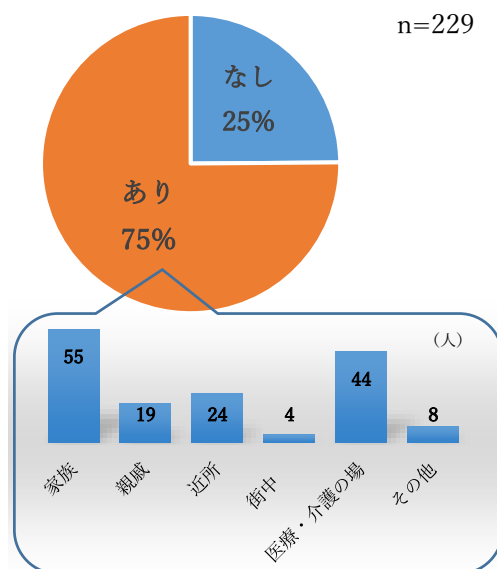


②今までに認知症の人と接したことがありますか？

75%の方と接したことがあると回答していた。内訳を見ると、家族

（55人）、医療・介護の場（44人）と回答した方が多かった。

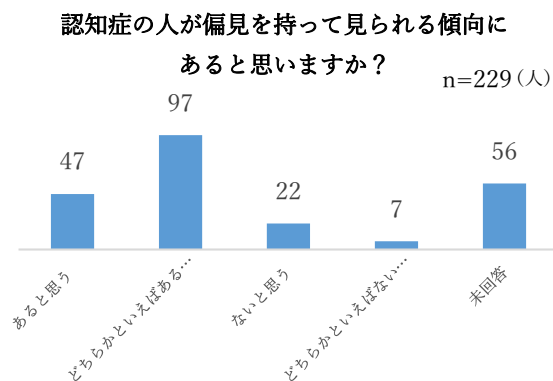
今までに認知症の人と接したことがありますか。



③認知症の人が偏見を持って見られる傾向にあると思いますか？

「あると思う（47人，21%）」、「どちらかといえばあると思う（97人，42%）」と合わせて63%の方が認知症の人が偏見を持って見られる傾向にあると回答していた。

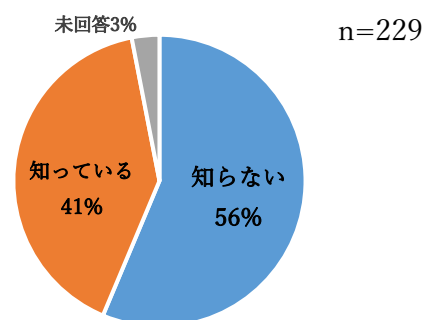
平成29年度は、「あると思う（137人，33.3%）」、「どちらかというところあると思う（203人，49.4%）」合わせて83%であった。



④市で実施しているもの忘れ検診を知っていますか。

「知らない (56%)」と回答していた方が「知っている (41%)」と回答した方より多かった。

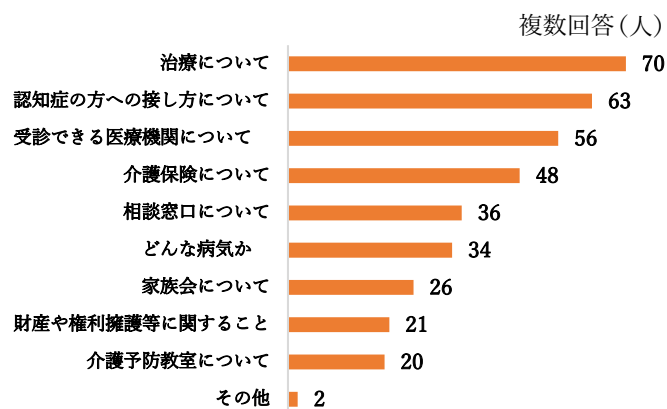
市で実施しているもの忘れ検診について



⑤認知症について知りたい情報はありますか。

「治療 (70人)」が最も多く、次いで「認知症の方への接し方 (63人)」、「受診できる医療機関 (56人)」であった。

認知症について知りたい情報



⑥認知症サポーター養成講座を受けたことがありますか？

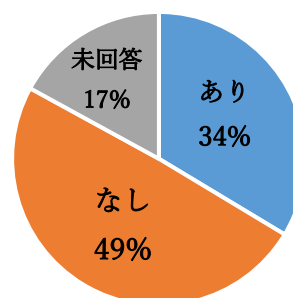
「あり (34%)」、「なし (49%)」でなしと回答した方が多かった。

平成 29 年度は「あり (150 人, 34.2%)」であった。

認知症サポーター養成講座の

受講歴

n=229



3) ご意見・ご要望について（全記載）

【認知症フォーラム運営について】

フォーラムのプログラムがあればよい。

プログラムがあったらいいと思う。プログラムが入ってなかったので進行状況がはっきりわからず不安だった。

流れの書いた紙が欲しいなと思った。

休憩時間が長い15分くらいが良い。

手話通訳がいたらよい。

【感想】

今年も（高校生）が良かったです。

学生さんたちの関与している。非常によかった。

自分が知りたい事がわからなかったが、知らなかった事で知れた事もよい。

初めて参加させてもらったが大変有意義でした。

トランプ（5人カン）が認知症予防に良いのではないか。

介護用品の実物を見て勉強になった。

私も現実味として考える時期になってきたので大変参考になった。

ブース等の専門用語は分かりにくい。

薬剤師会の節薬バックなどすぐ使える情報がよかったブースも工夫されていた。

飽きのこない進行でとても良い。また来年参加したい応援してます。

大変参考になりました。

スタッフの方お疲れ様でした薬剤師会の方自分の肥満度に気をつけて！中休みのビデオよかった。

認知症ケアパスについてわかりやすいです。

認知症ケアパスをもっと早くに活用できていればよかった。

認知症にならないよう努力していきたい。

五農のみでなく他の高校も取り入れるといいと思う。

高校生が高齢者のために活動していて「素晴らしい 地域の人に認知症の知識をもってもらうことは大事なので継続してほしい。

物忘れが多くなり、これからの生活に取り入れていくべきか知りたい。

高校生らが認知症カフェを地域全体に取り組んでいるのが勉強になった。

いろいろなブースがよい。五農の生徒さんのハンドマッサージもよい。

ブースで紹介されているリハのパンフレット参考になります。

ブースのオムツのサンプルを参考に購入します。トロミにも興味あったのですが時間がなく残念。

来年も友達と来ます。楽しい時間を過ごせました。

認知症ケアパス、在宅介護支援センターの説明がわかりやすかった。認知症について楽しく学べたのでまた来年も来ます。スタッフの皆様お疲れ様でした。

五所川原の取り組みを聞いてよい。人形劇をもっと見たい。

来年も金多豆蔵をお願いします。全体的に流れがスムーズに進行してよい。

勉強になり、とても楽しかったです。ブース説明が多すぎ。認知症の事をどうすればいいのか津川先生の話をもっと聞きたかった。

【その他要望】

金多豆蔵一座の公演がすごくよかった！来年も要望します。

今回のようなイベントを年2回にして欲しい。

寸劇多めにして欲しい。金多豆蔵来年もお願いします。

金多豆蔵またお願いします

関係者、スタッフの皆さんお疲れさまです。楽しませていただきました。有難うございます。

認知症予防の一環として栄養学のお話もあればいいと思います。

4 考察

- 平成29年度の参加者数は911人、対象者数800人、有効回答者数488人、有効回答率61%に比べると、30年度は参加者約100人減、回収率も29%減となっている。開催時期は昨年同様であるため、事業の周知方法、アンケート用紙の配布（セッティング）方法に反省点と改善点があるのではないかと考える。
- 認知症の方を支える地域づくりを推進していく視点から、高齢者を支える側の世代の参加が少なく、認知症フォーラムの目的に見合った対象者にターゲットを当てているか検討が必要である。
- 来場者の満足度は高く、イベント内容の充実やスタッフの対応の良さが影響していると考えられる。このことが次年度の参加意欲の高さに繋がっていると考えられる。
- 認知症に対する正しい理解という点に関しては、「病気だと思う」と回答した方が平成29年度とほぼ同様であり、引き続き認知症の理解について普及啓発していく必要があると考える。
- 「認知症の人が偏見を持って見られる傾向にあると思いますか？」という設問に対し、63%の方が認知症の人が偏見を持って見られる傾向にあると回答しており、昨年度の83%に比べると減ったものの、依然として偏見を持って見られる傾向にあると推察される。よって、引き続き認知症の理解について普及啓発が必要である。
- 市で実施しているもの忘れ検診について、「知らない（56%）」と回答していた方が半数以上であることから、住民に十分な周知がされていないと考えられた。よって、周知方法について検討課題である。
- 認知症について知りたい情報については、治療や医療機関に関する内容が多いため、ケアパス・ケアガイドの活用や地域での健康教育を通じた情報提供を継続していく必要がある。
- 認知症サポーター養成講座を受けたことが「なし（49%）」と回答した方が約半数と多いため、サポーター養成の機会としても検討の余地があるのではないかと考えられる。
- ご意見・ご要望の自由記載から、フォーラムの“プログラム”については前向きに検討する必要がある。しかしながら、参加者の満足度や感想から認知症に対する知見の深まりが感じ取られ、本事業実施の地域への波及効果があると考えられる。

5 今後の課題

1. 市全体への本事業周知方法、周知時期について省察する。
2. アンケート回収率が低かった原因究明と改善を図る。
3. 本事業の目的の明確化とターゲットの選定について再検討する。
4. 対象となる 65 歳以上の市民全体への“もの忘れ検診の周知”方法について再検討する。
5. 平成 31 年度、本事業実施においてアンケートのご要望に記載のあった“プログラム”を加える。